

自己評価					学校関係者評価	次年度への課題と 今後の改善方策	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評 価		学校関係者の意見		
〔 1 〕 学習指導と進路 指導の充実  (企画マルチメ ディア課)  (教務課)  (図書課)  (進路課)	①指導内容の精選や 指導方法の工夫改 善により、よくわ かる授業を行うこ とで学習意欲を高 め、基礎基本の確 実な定着を図ると ともに、課題を発 見し、自ら考え行 動し解決できる能 力を育成する。  ②進路相談を充実 し、個々の生徒に 応じた支援をする とともに、集団の 一員としての社会 適応力や職業観を 培い、生徒一人一 人の進路実現を図 る。	評価指標	評価指標による達成度		総合評価	○授業に満足していな いと感じる生徒の原 因ををしっかりと把握 し、授業改善をして いく必要がある。ま た、授業に集中でき るような働きかけを して、授業をさらに 充実させて欲しい。  ○「計画的な学習」の 項目では学習時間だ けの評価になっている。 定期考査や校外 模試との相関をみる など、何かの工夫が 必要ではないか。  ○「主体的・対話的 で深い学び」が実 現できるよう工夫 された授業を展開 することで、さら なる授業力の向上 及び授業満足度の 向上を図りたい。  ○来年度の共通テス トを含め入試全般 について教科主任 等と連携を取りな がら対策を考えて いきたい。また、 模試の精選をさら に進めたい。	
		①-1 教職員は様々な工夫をして授業に 取り 組んでいるの質問に対し「おおよそ当て はまる」以上が 80%以上。	・教職員は様々な工夫を して授業に取り組ん でいるかの質問に対し 「おおよそ当てはまる」 以上が 97% であっ た。	A	(評定)  B		
		①-2 授業に対して満足しているの質問に対 し「おおよそ当てはまる」以上が 80 % 以上。	・授業に対して満足して いるかの質問に対し 「おおよそ当てはまる」 以上が 87 %であった。	A			(所見)  ・教職員は様々な工 夫をして授業に取 り組んでいる。  ・授業に対する満 足度は約 16 %が 「満足」、約 77% が「おおよそ満足」 であった。昨年度 はそれぞれ 14%、 66%であったの で、「満足」の割 合が高くなってい る。  ・授業には意欲的に 取り組んでいが、 半数に近い生徒が 計画的な学習がで きていない。昨年 度とほぼ同様であ った。  ・本年度は、中学生 体験入学や学校公 開などの学校行事 が対面で実施でき た。
		①-3 計画的な学習ができている、意欲を持 って授業に取り組んでいるの質問に対し 「おおよそ当てはまる」以上が 80%以上。	・計画的な学習は 57%、 意欲を持って授業に取 り組んでいるが 90%で あった。	B			
		①-4 授業時数の確保率を 83 % 以上。	・年度末において、商業 科、普通科とも 83 % 以上になる見込みであ る。	B			
		①-5 図書室の利用活性化のために、各学期 に 2 回以上、企画展などを行う。	・各学期に 2 回以上、企 画展を開催し、生徒の 参加も活発であった。	B			
		②-1 一人一人に対応したきめ細かな進路指 導が行われているという質問 に対し「お およそ当てはまる」以上が 80 % 以上。	・生徒約 73%、保護者 76%であり達成できて いない。	C			
		②-2 大学合格実績において、旧帝大等 難関 10 大学・医学部医学科合格を 10 % 以 上。	・旧帝大等 難関 10 大学 医学部医学科合格は 12 名で 8.7%で、達成には 至らなかった。	C			
		②-3 商業科において、全商 1 級 3 種目以上取 得者 20 % 以上、就職内定率 100 %。	・全商 1 級 3 種目以上 取得者 10%、就職内 定率 100%であった。	B			
		活動計画		活動計画の実施状況			
		①-1 相互授業参観や授業研究会、職員研修 等を年間 2 回以上実施して授業力の向上 を図る。	・相互授業参観は 1 学期と 2 学期に実施した。職員研修 会は、1 学期に 1 回「情報 セキュリティ研修」を実施 した。				
		①-2 電子黒板、生徒用タブレット等 ICT の 活用による授業、すなわち GIGA スクール 構想を推進する。	・Chromebook が導入され、 タブレットの活用が進ん だ。研究授業の際にタブレ				

			ット を使用する授業が多くなされた。			
		①-3、②-1 授業評価アンケートを行うことで目標達成度を評価し、その結果を授業改善につなげる。	・授業評価アンケートは1学期末に1回実施した。集計結果は9月に返却できた。			
		①-4 学校行事の精選、各学期末考查後の日程、授業実施曜日のバランス等、年間を通じての入念な計画を立て、授業時数確保に努める。	・学校行事を精選し、関連する課が連携して、バランスを取りながら計画し、授業時数を確保できた。			
		①-5 図書室利用を増やすために各種企画を行うとともに、必要な図書を増やす。	・本年度蔵書を約 600 冊追加した。SDGs、人権教育、キャリア教育などの資料充実が図れた。			
		② 教科のスポット補習を実施する。また、2週間に1回のペースでテストを始めとした遅進生徒の発見の手だてを講じ、生徒の学習指導を支援する。	・地歴公民の補習も含め必要な補習を実施できた。遅進生徒の発見の手立ては引き続き検討を要する。			
[ 2 ] 中高一貫教育の 充実  (教務課)  (企画マルチメディア課)	① 中高教職員の緊密な連携のもと、指導方法の工夫改善や教科横断的な学習の充実を図り、6年間の計画的・継続的な指導を行うなか、生徒の個性や能力を伸ばさせる。	評価指標	評価指標による達成度		総合評価	
		①-1 中高一貫教育研究委員会を年間2回以上。	・中高一貫教育研究委員会を1、3学期に各1回実施した。	A	(評定)	○ 中高一貫校の特色を出し切れていない。現在のはたらきかけは継続し、6年間でできることと3年間でできることの違いを考え、特色を活かすことが大切である。  ○ 中高が連携したユネスコスクールの取組が十分にできなかった。徳島県教育大綱に示されたようにあらゆる教育活動をSDGsに関連づけて実施できるよう効果的な取組を強化していきたい。
		①-2 中高教職員による相互授業参観や事後研修会を年2回以上。	・中高教職員による相互授業参観を1、2学期に各1回実施した。研究授業の授業参観・事後研修も複数回実施した。	A	B	
		①-3 中高教職員による授業交流を複数の科目で実施。	・数学と英語の科目において例年通り中高教職員による授業交流を実施した。今年度から国語も一部実施した。	B	(所見)	
		①-4 中高合同教科会を各学期1回以上。	・中高合同教科会を各学期にそれぞれ1回ずつ実施した。	A	・学校行事や講演会、職員研修会は精選して実施した。状況に応じて対面とZoomとを使い分けるようにした。	
		①-5 ESD（持続可能な開発のための教育）活動について連携し、中高合同の講演会や発表を年1回以上。	・3月に中高合同課題研究発表会（中2と高2）及び卒業生の話を聞く会を実施予定。	B	・本校中学生の体験授業を実施した。生徒の満足度は大変高かった。教員の負担については考慮の余地がある。	
		活動計画	活動計画の実施状況			
		①-1 有効で実施可能な案を事前に検討し、委員会では具体的な検討を行う。また、内進生の6年間成績の推移を用いて向上対策を検討する。	・教員の負担を大きく増やさないで中高連携や成績向上を図る新たな方策があまりないのが現状である。			
		①-2 相互授業参観を1、2学期に各1回計画	・中高一貫教育研究委員会を			○ 中高一貫教育のメリットを実感できるよう、特に進路の動機付けとなる機会を増やせるように、高校と中学校との生徒間及び教員間の連携を図っていききたい。英数国での教員の授業交流の取り組みを発展させるとともに、他教科の授業交流も進めていききたい。  ○ 行事が過多にならないよう精選を進めつつ、中高一貫教育研究委員会における協議を活性化させ、具体案を

		<p>し、校種を超えた授業を参観することができた。また、研究授業後の研修会へも参加した。</p>	<p>1、3 学期に各 1 回実施した。 研究授業ではその教科の教員が研修会に参加した。</p>			<p>○中学・高校とも志願者が減っている。学区制がなくなると阿南の高校は危機感を持たなくてはならない。富東を魅力化していく必要がある。進学も工夫した進学でないためである。部活動も盛んななどいろいろな魅力を打ち出していないと中学生は来ない。</p>	<p>○中学校及び高校の志願者増につながるよう学校の魅力を再検討し、広報活動を強化する必要がある。</p>
		<p>①-3 国語・数学・英語を中心に中学校の授業に高校教員が入ることで、併設型中高一貫教育のメリットを活かした指導法や指導体制を検討する。</p>	<p>・国語は必要に応じて各学期 1 回程度、数学は 1 学期から、英語は 3 学期から高校教員が習熟度別に分けて授業に入っている。その他芸術・体育以外は入っていない。さらなる改善の余地はあると思われる。</p>				
		<p>①-4 各学期初めの職員会議後に中高合同教科会を行う。</p>	<p>・中高合同教科会を各学期ににずつ実施した。</p>				
		<p>①-5 ESD 活動（ユネスコスクールの取り組み）を推進し、年間 2 回以上の関連行事を行う。</p>	<p>・「服のチカラプロジェクト」で子供服を集める活動は、今年度も行った。高校生に対しては対面での講演会を 1 回実施した。</p>				
<p>〔3〕 豊かな心を育む 教育の推進</p> <p>（生徒指導課）</p> <p>（人権教育課）</p>	<p>①教育の全領域において、時間厳守、身だしなみ、マナー等の基本的生活習慣を身につけさせるよう努める。</p> <p>②学校・家庭・地域社会との連携を深め、豊かな人間性を身につけさせ、さまざまな人権問題の解決のため、主体的に取り組む能力・実践力の育成に努める。</p>	<p>評価指標</p>	<p>評価指標による達成度</p>	<p>総合評価</p>	<p>○生徒の生の声を聞いてあげて欲しい。対面では言えないことを匿名でも言える関係性をつくって欲しい。</p> <p>○スクールカウンセラーが、今後ますます重要になってくる。専門的な知識を持たれ、心理学などを研究された方にきていただく機会を検討いただきたい。</p>	<p>○身だしなみの整備や挨拶については、自然にできている生徒が多く、今後も継続的な指導を心がけたい。清掃がきちんとできていると自覚している生徒が多いことへの方策は環境防災課と協力しながら学校全体の課題と捉える必要がある。遅刻が多い生徒は教育相談を要する生徒の増加とも関わっており、特定生徒に限られるため評価指標の再考を検討したい。</p> <p>○継続的な啓発・学習が重要である。生徒・保護者・教職員が意識を高められるよう、年間行事の時期、内容について課内で検討し、充実したものにできるように努めたい。</p>	
		<p>①-1 年間遅刻回数 20 回以上の生徒 0 人。</p>	<p>・遅刻回数 20 回以上の生徒（2 学期末現在）は 2 人いた。</p>	<p>B</p>			<p>（評定）</p> <p><b>B</b></p>
		<p>①-2 学校評価アンケートで身だしなみがきちんとできていると自己評価する生徒の割合を 90 % 以上。</p>	<p>・「身だしなみがきちんとできている」にあてはまると自己評価した生徒の割合は 94.2 % であった。</p>	<p>A</p>			
		<p>②-1 生徒対象アンケートで「人権問題について意識し、差別をなくすために行動したい」とする回答が 80%以上。</p>	<p>・「行動したい」という積極的な意見は 41 % であったが、「学習することで意識をするようになった」という前向きな意見が 69 % であった。また、人権学習に積極的に参加した生徒は 54 % と、前年度と比べ 7 % 増加した。</p>	<p>B</p>			
		<p>②-2 保護者・教職員対象アンケートで「人権を尊重するための様々な取組が行われている」が 80%以上。</p>	<p>・「おおよそ当てはまる」以上の回答が教職員 100 %、保護者 89 %、生徒 95 % であった。</p>	<p>A</p>			<p>・高校 3 年間、人権 HR をはじめとする教職員や学校全体での様々な取組や家庭の協力の成果があったと考える。</p>
		<p>活動計画</p>	<p>活動計画の実施状況</p>				
	<p>①-1 多遅刻者には、保護者への連絡を密にする。</p>	<p>・遅刻者には、その都度指導し、生徒理解につなげた。</p>					

			遅刻回数が多い生徒については、家庭との連絡を密にとり協力をあおいでいる。			○服装・頭髪等の指導は徹底して行うが、「適正な校則の運用・見直し」の実施に伴い職員・生徒の共通認識のもと校則を運用していくことが難しくなると予想され、今後の課題と捉えている。
		①-2 身だしなみを整えたり生活全般においてマナーを守ることの大切さについて集会やHRでの指導を通して自覚を高める。清掃活動への自主的な取組を促す。	・昇降口指導や月1回の各HRでの服装・頭髪チェックを通じて指導の徹底を図っている。学年集会時にも身だしなみに関する指導を行っている。			○身近な問題として考えられる生徒が増えるためには、教職員の人権感覚を高めていくことが必要である。教職員研修の場を充実したものにするように努めている。
		②-1 人権教育ホームルーム活動を充実させ、授業展開等の工夫をする。また、月1回の「富東人権の日」に「富東人権新聞」やアピール放送を使って啓発する。	・指導案を基に各学年で事前検討会を行い、共通理解を図って授業を実施することができた。また、人権教育推進委員が教員と話し合いながら執筆した人権新聞の発行やアピール放送をすることができた。	・人権HR活動の前に、各学年で指導案作成し、検討会を行った。生徒の実態を鑑みて内容を検討できた。教職員の共通理解に基づく人権HRを実施できた。	○人権新聞の取組は、受け身の生徒が多くいないのか。受け身で得られるものもたくさんあるが、実感値みたいなのが数値でとれたら、他校との差別化ができるのではないか。	○「富東人権新聞」やアピール放送の内容については、引き続き担当教員と生徒で内容を吟味していきたい。
		③-2 校内研修会を企画し、教職員の人権意識を高める。また、「富東人権新聞」を保護者にも読んでもらい、人権意識の高揚を図る等の継続的な啓発を行う。	・教職員対象に3回、講演会等の研修会を実施することができた。人権新聞の発行時には、毎回担任から保護者と話し合う機会を持つように呼びかけを行った。	・教職員に対しては同和問題についての知識・理解をさらに深められるような内容を検討したい。		
[4] 特別活動の充実  (特別活動課)  (環境防災課)  (保健厚生課)	①部活動や生徒会活動等において、生徒の自主的活動の育成を図るとともに、活力あふれる学校づくりに努める。  ②環境問題への意識高揚と校内環境美化に努めるとともに、安全教育の徹底と健康増進の積極的指導に努める。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	○社会で生きていくスキルを身につける学校にし、生徒がそのような視点を持つことで、いい学校になっていく。	○掲示板等で部活動等の諸活動を発信しているが、生徒会での各種啓発活動を活発にしていきたい。  ○講演会等による集団への指導や、保健委員会活動を計画していきたい。  ○訓練について、地震津波の他、場面に応じた避難ができるように各学期で実施していく。
		①-1 生徒会新聞を年間3回以上発行。今年は特に部活動にスポットを当てPR。	・生徒会新聞の発行はできなかったが、生徒会主体の壮行会を多く行い、部活動にスポットを当てることができた。	C	(評定)	
		①-2 球技大会のアンケートで満足度を81%以上。	・90%の生徒が満足と回答。継続する。	A	B	
		②-1 避難訓練を各学期1回以上。	・1学期2回、2学期2回、3学期1回(初動確認含)実施	A	(所見)	
		②-2 アンケートで「校内美化活動に積極的に取り組んでいる」の割合が80%以上。	・校内美化に関する生徒の自己評価73%	A	・すべての学期において訓練を実施できた。	
		②-3 保健だより等を月1回発行。	・保健だより、カウンセラー便り等を発行した。	A	・8月を除き毎月保健だよりを発行することができた。次年度も定期的に発行し、内容についても検討したい。	
		②-4 規則正しい生活習慣を確立するための指導を1、2年生を対象に年2回実施。	・1年生を対象に、生活習慣改善プロジェクトを年2回実施し、生活習慣改善に向けた取り組みを行った。	B	・生徒保健委員会の活動で保健だよりの発行はできなかった。	

		<table><tr><th>活動計画</th><th>活動計画の実施状況</th></tr><tr><td>①-1 アフターコロナ時代に合った部活動・生徒会活動を活発にする。</td><td>・通常に近づいた状態で活発に実施できた。</td></tr><tr><td>①-2 球技大会はアンケートで種目を決定し、生徒が主体的に運営する。</td><td>・2学期は中3も参加して実施。また、先生チームとの対戦も実施し、大いに盛り上がった。</td></tr><tr><td>②-1 生徒防災委員長がアピール放送を行い、防災意識を高める訓練を行う。</td><td>・放送は実施しなかったが、防災訓練や文化祭で啓発活動を実施した。</td></tr><tr><td>②-2 毎日の清掃活動を「5分前」に取りかかる姿勢を身につけさせる。また、モノを大切に使う精神や分別作業を徹底するため啓発活動を積極的に行う。</td><td>・毎日清掃活動5分前の放送を委員会で実施し、取り組みに意識付けを行った。</td></tr><tr><td>②-3 電気・水道使用量を広報し、節電・節水を呼びかける。</td><td>・ポスターの掲示により呼びかけを行った。</td></tr><tr><td>②-4 生徒保健委員会を活用し、保健だよりを作成する。</td><td>・生徒保健委員会での発行はできなかった。</td></tr><tr><td>②-5 生活習慣改善プロジェクトを活用し、睡眠や肥満予防についての指導を実施する。</td><td>・睡眠については保健だよりに掲載し、肥満指導は対象者に個別指導を行った。</td></tr></table>	活動計画	活動計画の実施状況	①-1 アフターコロナ時代に合った部活動・生徒会活動を活発にする。	・通常に近づいた状態で活発に実施できた。	①-2 球技大会はアンケートで種目を決定し、生徒が主体的に運営する。	・2学期は中3も参加して実施。また、先生チームとの対戦も実施し、大いに盛り上がった。	②-1 生徒防災委員長がアピール放送を行い、防災意識を高める訓練を行う。	・放送は実施しなかったが、防災訓練や文化祭で啓発活動を実施した。	②-2 毎日の清掃活動を「5分前」に取りかかる姿勢を身につけさせる。また、モノを大切に使う精神や分別作業を徹底するため啓発活動を積極的に行う。	・毎日清掃活動5分前の放送を委員会で実施し、取り組みに意識付けを行った。	②-3 電気・水道使用量を広報し、節電・節水を呼びかける。	・ポスターの掲示により呼びかけを行った。	②-4 生徒保健委員会を活用し、保健だよりを作成する。	・生徒保健委員会での発行はできなかった。	②-5 生活習慣改善プロジェクトを活用し、睡眠や肥満予防についての指導を実施する。	・睡眠については保健だよりに掲載し、肥満指導は対象者に個別指導を行った。	<p>ったが、9月の文化祭で阿南保健所と連携した保健展を実施した。</p> <p>・講演会等の集団に対する保健指導の機会を少しずつ増やしていきたい。</p>		○講演会等による集団への指導や、保健委員会活動の充実を図りたい。
活動計画	活動計画の実施状況																				
①-1 アフターコロナ時代に合った部活動・生徒会活動を活発にする。	・通常に近づいた状態で活発に実施できた。																				
①-2 球技大会はアンケートで種目を決定し、生徒が主体的に運営する。	・2学期は中3も参加して実施。また、先生チームとの対戦も実施し、大いに盛り上がった。																				
②-1 生徒防災委員長がアピール放送を行い、防災意識を高める訓練を行う。	・放送は実施しなかったが、防災訓練や文化祭で啓発活動を実施した。																				
②-2 毎日の清掃活動を「5分前」に取りかかる姿勢を身につけさせる。また、モノを大切に使う精神や分別作業を徹底するため啓発活動を積極的に行う。	・毎日清掃活動5分前の放送を委員会で実施し、取り組みに意識付けを行った。																				
②-3 電気・水道使用量を広報し、節電・節水を呼びかける。	・ポスターの掲示により呼びかけを行った。																				
②-4 生徒保健委員会を活用し、保健だよりを作成する。	・生徒保健委員会での発行はできなかった。																				
②-5 生活習慣改善プロジェクトを活用し、睡眠や肥満予防についての指導を実施する。	・睡眠については保健だよりに掲載し、肥満指導は対象者に個別指導を行った。																				

〔5〕 家庭・地域社会との連携による「社会に開かれた教育課程」の推進  (総務課)  (教務課)  (進路課)  (環境防災課)  (企画マルチメディア課)	①情報公開を積極的に行う。  ②家庭・地域社会と連携・協働しながら、生徒の能力を伸長する教育課程の実施に努める。  ③学校評価や学校運営協議会制度を活用して、教育方法や学校運営の改善を図る。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	○生徒の発想でのホームページの配信を検討していただきたい。大人とは違う発想で生徒がいきいき活動できれば富岡東高校の魅力が高まる。	○ホームページを更新する教員が偏っている現状がある。ホームページは広報活動の最大の機会であるので、校内の更新者が増えるよう呼びかけを強化していきたい。GIGAスクール構想への対応も積極的に進めていく必要がある。
		①-1 ホームページのアクセス数が年間 200 万件以上。	・1/28 までで約 280 万件であった。A	B		
		①-2 ホームページの更新回数は、年間 200 回。	・1/28 までで新着記事は 99 件であった。その他の把握できていない。C			
		②-1 P T A 総会の保護者参加率 50 % 以上、文化祭一般公開日の来校者数 1,000 名。	・P T A 総会の保護者参加率は 29 %。(授業参観参加率は 68%) ・文化祭一般公開日の来校者数は 1,039 名であった。B	(所見)  ・ホームページの更新回数が目標に全く届いていないのは残念であった。		
		②-2 各学年の「保護者対象進路説明会」保護者参加率 60 % 以上。	・参加率は 50 % で達成できなかった。(普通科 58.9%、商業科 10%) C			
		②-3 地域との合同避難訓練の参加者数を 30 名以上。	・日程の確保ができず、実施できなかった。C			
		③ 学校運営協議会を年間 2 回以上開催。	・2 回目の学校運営協議会を 2 月に実施する A			

			予定である。			
		活動計画	活動計画の実施状況			
		①-1 生徒や保護者には、定期的にH Pを閲覧するよう呼びかける。	・家庭へので連絡事項も多かったためか閲覧者は増加した。			
		①-2 学校行事や部活動実施後にホームページを更新する。	・何度か更新を呼びかけたを行ったが、更新回数は不十分とは言えない。			
		②-1 生徒・保護者・地域社会・学校が一体となって、充実した教育活動が実践できるよう努める。	・保護者の方々の御理解、御協力により、安心・安全な教育活動を行うことができた。			
		②-2 進路に関する情報提供を積極的に行う。	・概ねできたと思われる。P T A研修旅行は今年も実施できた。			
		②-3 自主防災組織との合同訓練を行うことで、地域との連携を図り、共助の精神を養う。	・実施できなかった。。			
		③ 学校評価アンケートを2学期末に実施し、その結果をもとに3学期に学校運営協議会を開催する。	・学校評価アンケートを12月に実施した。2月に第2回学校運営協議会を実施する予定である。			
[ 6 ] 伝統を受け継ぐ さわやかな校風の樹立  (生徒指導課)  (環境防災課)	①文武両道を遂行し、礼儀正しく「さわやかで活力あふれる富東」の精神を高める。  ②地域社会の期待に応えとともに清潔な環境の中で、心のふれあう校風を樹立する。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	○先生方もよく頑張っている。生徒もものすごく元気にあいさつをしてくれる。元気な教員によってあいさつ運動を継続していただきたい。	○校舎内ではよくあいさつができて印象であるが、通学時や外来者へのあいさつの声が小さいという指摘がある。形式的なものではなく、どのような場面でも心のこもったあいさつをすることの大切さを伝えていきたい。キャッチフレーズ「挨拶で心ふれ合う富東」を体現できる生徒を育成したい。
		① 学校評価アンケートで「友だちや先生にきちんとあいさつができています」の項目で「おおよそ当てはまる」以上の回答が90%以上。	・あいさつができていますと自己評価した生徒は、92.8 %と目標を達成した。A	(評定)  A		
		② 学校周辺や避難経路の清掃を各クラスで年2回以上実施。	・学校周辺や避難経路の清掃を学校全体で3回実施した。A	(所見) ・校内では自発的にあいさつができる生徒が多く、活力が感じられる。一方、声に出してあいさつができない生徒も一部みられる。		
		活動計画	活動計画の実施状況			
		① 生徒会や生活委員会のあいさつ運動を活性化させ、生徒から自発的にあいさつができるよう働きかける。	・月1回、生徒会や生活委員会によるあいさつ運動を実施して活性化を図った。			
		② HR 活動でゴミゼロ運動の日を設定し、学校周辺の校外清掃活動に取り組む。	・学校周辺や避難経路の清掃を学校全体で実施した。			